

— 医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読みください。 —

「使用上の注意」改訂のお知らせ

2025 年 5 月-6 月

販 売 元 日本ジェネリック株式会社
製造販売元 長 生 堂 製 薬 株 式 会 社

精神情動安定剤・視床下部作用性抗潰瘍剤

日本薬局方 スルピリド錠
スルピリド錠50mg「CH」
Sulpiride Tablets

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、弊社上記製品につきまして「使用上の注意」を改訂いたしましたので、ご案内申し上げます。

つきましては、今後は下記内容に充分ご留意くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬白

記

1. 改訂内容

次のとおり、自主改訂いたしました。

- ・相互作用相手薬記載との整合のため、「併用注意」の項に「ボツリヌス毒素製剤（A型ボツリヌス毒素、B型ボツリヌス毒素）」、「モノアミン酸化酵素阻害剤（セレギリン、サフィナミド）」、「ゾニサミド」、「スクラルファート水和物」を追記し、「ピモジド」、「ジギトキシン」を削除いたしました。

※改訂箇所は裏面をご確認ください。

なお、上記につきましては、医薬品安全対策情報（DSU）No.336（2025 年 6 月発行予定）に掲載されます。

以上

今回の使用上の注意改訂等を反映した電子化された添付文書情報につきましては、以下よりご確認ください。

- ・日本ジェネリック株式会社 医療関係者向けサイト (<https://medical.nihon-generic.co.jp/>)
- ・医薬品医療機器総合機構ホームページ(<https://www.pmda.go.jp/>)
- ・「添文ナビ®」にて個装箱等に表示の GS 1 バーコードを読み取る。
「添文ナビ®」のインストールや使用方法是日薬連のホームページをご覧ください。
(<http://www.fpmaj.gr.jp/Library/eMC/>)

お問合せ先：日本ジェネリック株式会社
安全管理部 TEL：03-6684-2467

スルピリド錠 50mg「CH」



J20250004

2. 改訂箇所（新旧比較）

部：改訂箇所、部：削除箇所

改訂後			改訂前		
10. 相互作用 10.2 併用注意（併用に注意すること）			10. 相互作用 10.2 併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
QT延長を起こすことが知られている薬剤 イミプラミン等 [11.1.3 参照]	QT延長、心室性不整脈等の重篤な副作用を起こすおそれがある。	本剤及びこれらの薬剤はいずれもQT間隔を延長させるおそれがあるため、併用により作用が増強するおそれがある。	QT延長を起こすことが知られている薬剤 イミプラミン ピモジド等 [11.1.3 参照]	QT延長、心室性不整脈等の重篤な副作用を起こすおそれがある。	本剤及びこれらの薬剤はいずれもQT間隔を延長させるおそれがあるため、併用により作用が増強するおそれがある。
ジギタリス剤 ジゴキシン等 [8.3 参照]	ジギタリス剤飽和時の指標となる悪心・嘔吐、食欲不振症状を不顕性化するおそれがある。	本剤の制吐作用による。	ジギタリス剤 ジゴキシン ジギトキシン等 [8.3 参照]	ジギタリス剤飽和時の指標となる悪心・嘔吐、食欲不振症状を不顕性化するおそれがある。	本剤の制吐作用による。
ボツリヌス毒素製剤 A型ボツリヌス毒素 B型ボツリヌス毒素	過剰な筋弛緩があらわれるおそれがあり、嚥下障害等の発現が高まるおそれがある。	本剤及びこれらの薬剤は、ともに筋弛緩作用を有するため作用が増強されるおそれがある。	←追記		
モノアミン酸化酵素阻害剤 セレギリン サフィナミド ゾニサミド	相互に作用を減弱させることがある。	脳内ドパミン受容体が遮断される。			
スクラルファート水和物	同時に服用することにより、本剤の効果が減弱するおそれがある。 この作用は薬剤の服用時間をずらすことにより、弱まるとの報告がある ¹⁾ 。	本剤が併用薬剤に吸着し、消化管からの吸収が遅延又は阻害される。			
23. 主要文献 1)M.W.Gouda, et al. : International Journal of Pharmaceutics. 1984 ; 22 (2-3) : 257-263 2)～12) 〈変更なし：変更前の1)～11)〉					
23. 主要文献 1)～11) 〈省略〉			23. 主要文献 1)～11) 〈省略〉		